

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第2期募集 入学試験問題

(2枚のうち1枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	人と自然の共生		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1 (1)～(9)のうち、5つを選択して回答してください。また、選択した問題の番号を書いたから、回答してください。

- (1)食料自給力指標
- (2)土地利用のスプロール
- (3)中山間地域等直接支払制度
- (4)農地バンク(農地中間管理機構)
- (5)被害構造論
- (6)共有地の悲劇
- (7)環境 NPO
- (8)エコツーリズム
- (9)河川を基軸とした生態系ネットワーク

【応用】

問2 (1)～(3)のうち、1つを選択して回答してください。また、選択した問題の番号を書いたから、回答してください。

(1) 次の①および②について回答してください。

- ① 古くから日本では様々なところで水上交通が発達してきた。これまでどのように水上交通が使われてきたか解説してください。
- ② 現在において水上交通はどのような可能性を秘めているか、多面的な観点からあなたの考えを述べてください。

(2) 次の①および②について回答してください。

- ① 環境問題は複雑な問題と考えられています。どのように複雑なのか、あなたの考えを論じてください。
- ② ①を踏まえ、人と自然の共生の実現に向けて、環境問題の複雑さにどのように対応したらいいと考えますか。具体的な事例を紹介しながら、あなた自身の考えを論じてください。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第2期募集 入学試験問題

(2枚のうち2枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	人と自然の共生		

(3) 次の①および②について回答してください。

- ① 農村における「生物多様性の変化の要因」を、いくつかの種類に分け、具体例とともに説明してください。
- ② 近年の傾向が続いた場合、30年後の農村の生物多様性はどうなっていると考えますか。ここでは、あなた自身の考えを聞いています。そのように考えた理由も記述してください。

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般・外国人

科目名 人と自然の共生

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題 1

(1)～(4) の出題意図

「人と自然の共生」では、「農業・農村」に関する視点が重要である。ここでは、「農業・農村」の分野で、基礎的な用語、おさえておくべき比較的新しい用語から出題した。関連する資料／文献は次のとおり。

(1) 『令和 5 年度 食料・農業・農村白書』（用語の解説・基本統計用語の定義）

https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r5/index.html

(2) 『改訂農村計画学』（改訂農村計画学編集委員会，農業農村工学会発行，2003） pp. 55・56

(3) 農林水産省の Web サイト。https://www.maff.go.jp/j/nousin/tyusan/siharai_seido/index.html

(4) 『令和 5 年度 食料・農業・農村白書』（用語の解説・基本統計用語の定義）

(5)～(8) の出題意図

「人と自然の共生」では、環境社会学の理論・視点が重要である。ここでは、『よくわかる環境社会学 第 2 版』（鳥越博之・帯谷博明編，ミネルヴァ書房，2017）から、基本的な理論・視点を出题した。

それぞれの用語の掲載箇所（頁）は以下の通りである。

(5) 「被害構造論と受益圏・受苦圏」 pp. 154・157

(6) 「共有地の悲劇と社会的ジレンマ」 pp. 88・91

(7) 「環境 NPO とコミュニティ・ビジネス」 pp. 110・112

(8) 「エコツーリズムのしくみ」 pp. 30・33

(9) の解答例

国土交通省が手引きで示す同様の内容であれば可とする

https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kankyo/gaiyou/panf/seitaikei_network_tebiki.pdf

解答例：生態系ネットワークとは、生物多様性が保たれた国土を実現するために、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につなぐ取組のことを指す。水環境に照らすと河川を自然環境の軸としてとらえ、接続する背後地の水路や水田などに生き物が相互に行き来できる環境の状態を指す。これの実現には、河川と水路を接続する堤防の樋門付近や水路の落差を無くして小型魚種などが行き来しやすいようにしたり、水路から水田に上がれるような水田魚道を設置したりなど流域全体を視野に入れた取り組みを指す。生態系ネットワークには基本的にコアエリア、バッファゾーン、コリドーと呼ばれる3要素で構成される。生態系ネットワークを保全・整備することで、生物多様性の確保、人と自然とのふれあいの場を提供、地域に社会面・経済面においても様々な効果をもたらすことが期待されている。生態系ネットワーク形成には、流域のあらゆる主体で合意形成を行っていく必要があり、地域の様々なステークホルダーと一緒に連携していくことが重要である。

問題2

(1) の出題意図

「人と自然の共生」では、自然を活用しながら人の生活の営みを考えることが重要である。①は、河川という水域が水上交通という観点でどのような役割を果たしてきたか説明することで、自然環境の変遷や社会変化について順序立って捉えているかをみるものである。②では、身近な自然の価値の捉え方に対する基本的考え方や論文執筆の基礎力程度にみるが、「正解」はなく論の流れを主としながら採点する。

(2) の出題意図

人と自然の共生では、複雑で厄介な問題であり、フィールドワークと理論思考を融合させながら「試行錯誤していく能力」と「未来を考えていく能力」が問われる。①は、複雑な問題としての環境問題（あるいは人と自然の共生問題）という概念、視点、意義を確認するものである。②は、研究姿勢と実践への指向性、基本的な論文執筆能力を判断するものである。ただ正解はないため、論の立て方および事例の適切さで採点する。

(3) の出題意図

「人と自然の共生」では、その基盤となる生物多様性について、過去の変化を体系的に幅広くおさえていること、未来への視線の二つが求められる。①は、前者に対応した問題、②は、後者に対応した問題である。①について、絶対的な正解は存在しないが、『日本の里山・里海評価』『生物多様性国家戦略 2023-2030』といった関連資料を参考に採点する。②は、「未来」のことであり、「正解」と呼ぶことができるものはそもそもない。ここでは、研究に必要な「思考の流れ」を評価する。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第2期募集 入学試験問題

(2枚のうち1枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	共生社会		

【基礎】

問題1 以下の10の用語から4つを選択し、その意味を説明してください。解答の順番は問いませんが、選択した番号を文頭に明記してください。

- (1) エリザベス救貧法
- (2) ミーンズテスト
- (3) スティグマ
- (4) ワーキングプア
- (5) 日本国憲法第25条
- (6) 無作為抽出
- (7) 障害の社会モデル
- (8) 権威主義的パーソナリティ
- (9) クイア理論
- (10) 官僚制

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第2期募集 入学試験問題

(2枚のうち2枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	共生社会		

【専門】 問題2と問題3のいずれか1つを選び、選んだ問題番号を文頭に明記してください。

問題2 以下の図1は、日本の相対的貧困率の年次推移です。

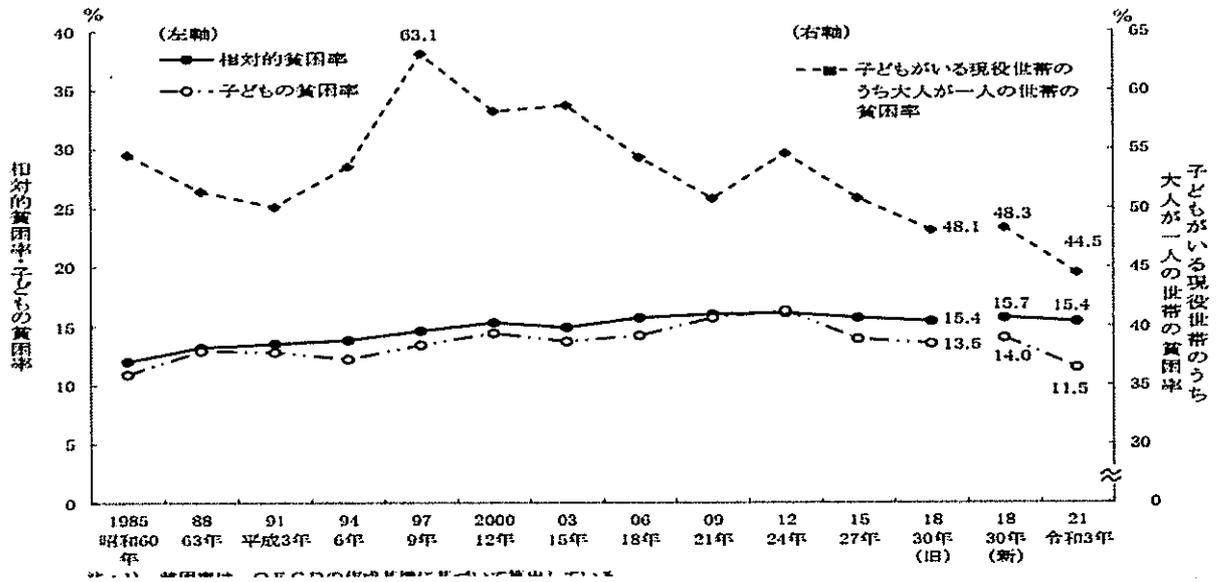


図1 日本の相対的貧困率の年次推移

出典 厚生労働省, 2023, 2022(令和4)年 国民生活基礎調査の概況, p.14

この図1から読み取れることを述べたうえで、今後子ども貧困対策と福祉政策における自身の見解を述べてください。

問題3 次の3つの問いに解答してください。

- (1) 現代社会で問題となっていると思われる社会現象を一つ取り上げ、それがいかなる意味で問題であるのか、説明してください。ただし、貧困問題は除いてください。
- (2) その問題を分析するのにふさわしい理論を取り上げ、それについて簡潔に解説してください。
- (3) その理論を用いて、取り上げた問題の原因について考察してください。

2025 年度 2 期金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 外国人

科目名 共生社会

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

【基礎】

問題1

出題意図:「共生社会」に関する基礎的知識を問う。『社会政策入門—これからの生活・労働・福祉』（法律文化社、2024 年）、金沢大学 GS 科目「生活と社会保障」のテキスト、アンソニー・ギデンズ『社会学 第五版』（而立書房）から出題した。

【専門】

問題2

出題意図:「共生社会」の専門的知識を問うために、図の読み取り・解釈の能力、そして、相対的貧困率の概念と日本の子ども貧困対策と福祉政策の政策動向を踏まえて、分析力と思考力を問うために出題した。

問題3

出題意図:現代世界における社会現象に関する問題発見能力を問い、その問題を取り扱う重要な理論の理解を確認し、社会現象に対する分析力と思考力を問うために出題した。アンソニー・ギデンズ『社会学 第五版』（而立書房）の範囲内で解答可能なものとした。